DNS(OSS, サーバー)ソフトウェアの変化



株式会社 インターネットイニシアティブ 島村 充 <simamura@iij.ad.jp>

Ongoing Innovation



本日取り上げるDNSサーバーソフトウェア

- •BIND9
- NSD
- Unbound
- Power DNS Authoritative Server
- Power DNS Recursor
- Knot DNS
- Knot Resolver

おさらい: BIND9のversioning

- ●開発版: 奇数系 (9.13, 9.15, …)
 - ◆現在の最新は 9.15.6
- ●安定版: 偶数系 (9.14, 9.16, …)
 - ◆現在の最新は 9.14.8
- ESV(Extended Support Version): 9.11
 - ◆4年間のサポート
 - ◆9.11は2021年12月までサポート
 - ◆次のESVは9.16 ('20 Q1リリース予定)

- ●昨年のIW時点: 9.11.5 (2019/10/18リリース)
- •12/12 9.11.5-P1
 - ◆NSEC(3)関連の不具合の修正
- •02/21 9.11.5-P4
 - ◆複数のEDNS keytagオプションのあるパケットの処理 でメモリリークする脆弱性
 - ◆Trust Anchorの自動更新で、更新後のTAのアルゴリズムが未対応のものだった場合にcrashする脆弱性
 - ◆DLZを利用している場合に、意図していないゾーン転送 を行ってしまう脆弱性

- •02/28 9.11.6
 - ◆bugfix中心
- •04/24 9.11.6-P1
 - ◆tcp-clientsが効かず、file descriptorが溢れてしまう DoS
- •05/16 9.11.7
 - ◆bugfix中心
- •06/19 9.11.8
 - ◆名前解決の際に異常なパケットを破棄するタイミングで race conditionでcrash

- •07/17 9.11.9
 - ◆GeoIP2 API対応
 - ◆他bugfix
- •08/21 9.11.10
 - ◆bugfix中心
- •09/18 9.11.11
 - ◆bugfix中心

- 10/16 9.11.12
 - ◆bugfix中心
- 11/20 9.11.13
 - ◆TCP pipeliningを用いると、TCPの同時接続数の制限が バイパスされてDoS

●サマリ:

- ◆TCP周りのDoSの修正に苦戦
- ◆脆弱性以外もかなり頻繁な更新
 - √ほとんどbugfix
 - ✓"-PX"は止めたのか?

[DNSOPS dnsops 1685] Re: (緊急1件)BIND 9の脆弱性に関する注意 喚起の公開について

先日、ISCから「今年から可能な限り、11/1-12/31に緊急でないセキュリティイシューの公開をスケジュールするのを避ける」という旨のアナウンスが公開されましたが[*1]、それでも出たということで。。[*1] ISC Security Vulnerability Policy Updated https://www.isc.org/blogs/vulnerability-policyupdate/

- •2019/03/22 9.14.0リリース
- New Feature
 - ◆EDNS workaround削除 (DNS Flag Day (2019))
 - ◆QNAME minimisation有効化 (relaxed mode)
 - ♦mirror zone
 - ◆root key sentinel
 - ◆min-cache-ttl/min-ncache-ttl
- ●Linuxでbuild時に(デフォルトでは)libcapが必要に

- ●9.14固有の脆弱性
- **•9.14.0**:
 - ◆nxdomain-redirectを使っていると特定条件でcrashする
- •**~9.14.6**:
 - ◆QNAME minimisationを有効化しており、forwarderが referralを返すとcrashする
 - ◆mirror zoneを使っている際に、それに対するDNSSEC 検証をバイパスすることができる場合がある

いつもの「新機能実装→脆弱性」の流れ

NSD

- ●去年のIW時点: 4.1.25 (2018/09/25リリース)
- •12/04 4.1.26
 - ◆DNSTAPサポート
 - ◆FreeBSD12でSO_REUSEPORT_LBを使えるように
- •03/25 4.1.27
 - ◆deny-any導入&デフォルト有効
- •06/11 4.2.0
 - ◆hide-identityオプション導入
 - ◆TLS OCSP staplingサポート

NSD

- •07/09 4.2.1
 - ◆bugfix中心
- •08/19 4.2.2
 - ◆細工されたゾーンファイルを読み込むとcrash
- •11/20 4.2.3
 - ◆異なるゾーンが同居しているときに、不必要にchainを 辿らないようにするオプション(confine-to-zone)

NSD

- ●サマリ:
 - ◆DNSTAP導入
 - ◆deny-anyがデフォルト有効で導入された
 - ◆久しぶりのCVE
 - ✓ただし、remoteからは不可

Unbound

- ●去年のIW時点: 1.8.1 (2018/10/08リリース)
- 12/04 1.8.2
 - ◆deny-any実装
- •12/11 1.8.3
 - ◆DNS64のbug fix
- •02/05 1.9.0
 - ◆EDNS workaround削除(DNS Flag Day (2019))
 - ◆DoTのTLS関連オプション追加

Unbound

- •03/11 1.9.1
 - ◆ログ周りの改善
- •06/17 1.9.2
 - ◆[AI]XFR over TLS
 - ◆deny-anyの応答がNOTIMPを返すようになる
- •08/27 1.9.3
 - ◆IPSet module導入(iptablesと協調するための応答を返すmodule)
 - ◆crashバグ修正

Unbound

- 10/03 1.9.4
 - ◆細工されたNOTIFYを受信するとcrashする脆弱性
- 11/19 1.9.5
 - ◆ipsec moduleを有効にしている際に、細工された IPSECKEY応答を受け取ると**shell code実行が可能な脆弱性**
- ●サマリ:
 - ◆EDNS workaround削除
 - ◆deny-any
 - ◆脆弱性多め。しかもRemote Code実行有(not default)

PowerDNS Authoritative Server

- ●去年のIW時点: 4.0.6 (2018/11/06リリース)
- •03/18 4.0.7
 - ◆HTTPリモートバックエンドでバリデーションが不十分 だった
- 06/21 4.0.8
 - ◆細工されたレコードのあるゾーンを読み込むことによっ てクラッシュ
 - ◆多数のNOTIFYを送られることでCPU負荷が上がってしまう

- 08/01 4.0.9
 - ◆PostgreSQLバックエンドを使っている際に、細工されたレコードのあるゾーンを読み込むことによりクラッシュ

●サマリ:

◆crashバグ2件

- ●去年のIW時点: 4.1.5 (2018/11/06リリース)
- •01/31 4.1.6
 - ◆同一の名前に対して、CNAME/SOAレコードを1つに制限
- •03/18 4.1.7
 - ◆HTTPリモートバックエンドでバリデーションが不十分 だった
- •03/22 4.1.8
 - ◆bugfix中心

- •06/19 4.1.9
 - ◆"superslave" を無効化できるように
- •06/21 4.1.10
 - ◆細工されたレコードのあるゾーンを読み込むことによってクラッシュ
 - ◆多数のNOTIFYを送られることでCPU負荷が上がってしまう

- 08/01 4.1.11
 - ◆PostgreSQLバックエンドを使っている際に、細工されたレコードのあるゾーンを読み込むことによりクラッシュ
- **•**08/09 4.1.13
 - ◆bugfix中心
- •08/30 4.2.0
 - ◆LMDBバックエンド
 - ◆"LUA" RR Type
 - ◆他多数

- ●サマリ:
 - ◆4.2.0で "LUA" RR Typeが導入
 - ✓ PowerDNS Recursor 4.0.0に続き。

©Internet Initiative Japan Inc.

Power DNS Recursor

- ●去年のIW時点: 4.1.8 (2018/11/26リリース)
- **•01/21 4.1.9**
 - ◆TCPで問い合わせされた際にLUA scripの呼び出しがバイパスされる場合がある脆弱性
 - ◆DNSSEC validationをバイパス可能性な脆弱性
- **•01/24 4.1.10**
 - ◆protobufサポートを無効にしてbuildした場合のbugfix
- **•**02/01 4.1.11
 - ◆protobufロギング有効時のsystem callの利用の削減
 - ✓ Spectre/Meltdown対策への対策

Power DNS Recursor

- 04/02 4.1.12
 - ◆EDNS Client Subnet利用時のキャッシュ上限を実装
- •05/21 4.1.13
 - ◆wildcardなレコードに対するDNSSEC検証のbugfix
- •06/13 4.1.14
 - ◆bugfix
- •07/16 4.2.0
 - ◆EDNS workaround削除 (DNS Flag Day (2019))

Power DNS Recursor

●サマリ:

◆EDNS workaround削除は結構遅めだった

√7/16 4.2.0

Knot DNS

- ●去年のIW時点: 2.7.4 (2018/11/13リリース)
- •11/11 2.9.1
 - ◆bugfix中心
- 10/10 2.9.0
 - ◆tcp-reuseportサポート
- •09/24 2.8.4
 - ◆DSレコードをDDNSを利用して親ゾーンにアップロードする機能

Knot DNS

- •07/16 2.8.3 | 07/15 2.7.8
 - ◆TCP clientの上限に達したときのCPU負荷の低減
- •06/05 2.8.2
- •04/09 2.8.1 | 04/08 2.7.7
- •03/05 2.8.0
- •01/23 2.7.6
- **•**01/07 2.7.5

Knot Resolver

- ●去年のIW時点: 3.1.0 (2018/11/02リリース)
- 10/07 4.2.2
- •09/26 4.2.1
- •08/05 4.2.0
 - ◆RD bitが立っていない問い合わせにREFUSEDを返す
- •07/10 4.1.0
 - ◆偽の不在応答を返す脆弱性
 - ◆DNSSEC署名されたドメインをinsecureにダウングレードさせることのできる脆弱性

Knot Resolver

- •04/18 4.0.0
 - ◆DNSSEC検証がデフォルト有効化
 - ◆DoTのportのlistenがデフォルト有効化
 - ◆DoHサポート
- •01/10 3.2.1
- •12/17 3.2.0